



“考える力をつけよう”

園長 高杉 洋史



今年に入り、小児科の先生方と幼児教育関係者の連絡会に入れていただきました。手足口病やリンゴ病の流行の情報など教えていただいています。将来的には多くの人が子育てに対する意識と知識をお互いに高めることを目指しています。カゼやインフルエンザは教室やスクールバスの中でうつるのですが、玄海ゆりの樹幼稚園では今のところ大流行とまではなっていません。保護者の皆さんが早めの対応をとってくださいているおかげです。幼稚園の先生も泣く子を抱いたりかなりのスキンシップがあるのですが、病気で欠席は少ないです。幼稚園教諭になって一年目や二年目は感染症に慣れていないのですが、次第に免疫力が強くなってきます。結局は「手洗い」や「早寝早起き朝ごはん」などの基本的な生活習慣と、たくさん遊ぶことで体力をつけることが今のところ最善の対策のようです。スクールバスに添乗する先生は念のために次亜塩素酸の液でシートを拭いたり、霧吹きで噴霧したり、プラズマクラスターを稼働させたりしています。教室でもジアイーノという機械に水を入れたり塩のタブレットを入れたり、こまめに配慮しています。

一つのことでは効果が出るといえるのではなく、保護者の皆様の感染症に対する意識と対応はじめ総合的な対策で、感染症の広がりを抑えているのでしょうか。ご協力に感謝いたします。



お医者様も日々研修を積み重ねていますが、幼稚園の先生の世界も研修が増えてきました。また研究発表の順番も回ってくるのが早くなりました。昨年は長崎で九州全体の幼稚園の研究会で溝口先生と早田先生がドリカムタイムのことを発表してきましたが、今年も当たりました。今回は福岡県の幼稚園が集まる研修会で、溝口先生と早田先生が毎日の反省会で記録された出来事の自動集計とそれらのデータをその後の幼児教育にいかにか生かすかという発表をいたしました。発表者だけでなく教諭全員の毎日の記録の積み重ねがあつてこそデータの集計です。例えば「インフルエンザ」というキーワードで集計すると、各教諭が入力した記録に「インフルエンザ」という単語が入っていたら抽出されます。いまのところ一年半のデータ量ですが、それでも昨年秋季のインフルエンザが始まったころの状況やその後の広がりなど、次回シーズンに向けて対策を考える材料となります。姉妹園の吉塚ゆりの樹幼稚園は7月に公開保育が当たりました。年少さんのポップコーンクッキングの発表でしたが、理科担当の洋史先生(私のこと)としてはどんな質問が来てほしいようにポップコーンのことを勉強しました。

さて、みなさんはなぜポップコーンは熱をかけると弾けるかご存知ですか？スマートフォンやゲル検査に頼らずにまず自分の頭で考えてみましょう。そういえばこれからの教育に望まれていることは知識の習得もさることながら、考える力を伸ばすことです。疑問を持つことが大切です。